

平成 27 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2015

Date:2016 年 3 月 3 日

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 講師
氏名 Name	村田 真実
専門分野 Academic Field	方言学・社会言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	① 近畿周辺部における accent class division(ACD)について ② 方言文末詞の音調と機能について ③ テキストマイニングによる悪文の傾向
① ACD について、三重県で臨地調査を行った。三重方言、徳島方言、富山方言のデータに対して、統計手法を用いた ACD の分析モデルの構築を行った。分析モデルの構築は試行段階であり、必ずしも十分なものであるとはいえないが、一定の成果を得た。成果は以下の通り。 ●Murata, Mami (2015) “A Logistic Regression Approach to Accent Class Division in Japanese Dialects: With Special Reference to The KEIHAN-TYPE Accent System in Peripheral Kinki Regions” International Congress of Phonetic Sciences(ICPhS), Glasgow, UK	
② 方言文末詞の音調と機能について、徳島市方言を中心に調査、分析を行った。また、対象地域を広げて研究を行うために、四国四県に対して通信調査を開始した。成果は以下の通り。 ●村田真実「徳島方言における文末詞「デ」の音調と機能—徳島市及び隣接地域を中心に—」『音声言語』VII、近畿音声言語研究会、2015 年 3 月刊行予定	
③ 日本人大学生の書いた文章 150 件に対し、テキストマイニングを用いた分析を行い、文章表現担当の教師が書く文章とどのように異なるか傾向を分析した。成果は以下の通り。 ●Satoshi Kiriya, Mami Murata, Reiko Yabe, Masashi Miura, Yoshifumi Ohbuchi (2015) “Problem-solving Method Utilizing Collective Intelligence” The 16th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference(APIEMS2015), Ho Chi Minh City, Vietnam ●桐山聰、矢部玲子、三浦政司、村田真実「集团的知性に着目した協働学習のパフォーマンス向上手法の研究」第 22 回大学教育研究フォーラム、於京都大学、2016 年 3 月 ●矢部玲子、桐山聰、三浦政司、村田真実「意思決定ルール付与による文章作成能力向上の検証」第 22 回大学教育研究フォーラム、於京都大学、2016 年 3 月	